

題 寒くなりましたが潜水調査へ

技師 角田 直哉

12月の潜水調査は寒くない？

2022年もあと少しで終わり。朝晩はだいぶ冷え込んでいますが、海の中の様子を見に潜水調査に行ってきました。こんな寒い日に潜水か…なんて思いますが、海の中はやっと20℃を下回ったところで意外と暖かいのです。また、ドライスーツを着用しているので（手や頭を除いて）濡れることもなく快適です。さらに、今の時期は海の透明度が高いこともあり、実は潜水調査に向いている時期なのかもしれません。

小田原地先の海中の様子

今回の潜水調査の目的は、小田原地先に今年投入されたコンクリートブロック（人工リーフ）への海藻の付着状況や魚礁としての機能を観察することです。潜水する海域までは船外機船「はやかわ」で向かい、到着後早速潜水を開始しました。ネンブツダイやスズメダイなどの小魚から、ニザダイやタカノハダイ、イシダイなどの中型の魚類が多数観察され、魚礁として機能している様子が確認できました（図1～3）。ただ、魚類はたくさん確認されたものの、コンクリートブロック表面にはフジツボ類の付着が観察されるにとどまり、海藻が見られるのはまだこれからのようです（図4）。西湘海域は広く磯焼け状態にありますが、早熟カジメ（ほうじょうコラム9月、10月参照）の展開と並行して継続した潜水調査を行うことで、今後の変遷を追っていきたいと思います。

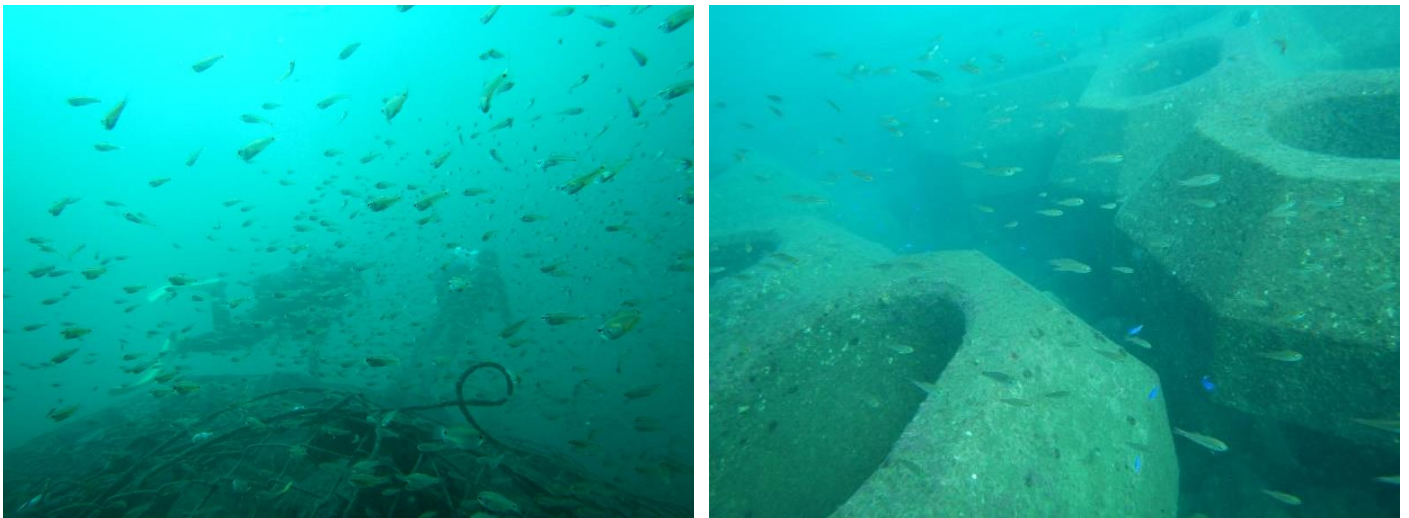


図1 ネンブツダイなどの小魚



図2 スズメダイ



図3 ニザダイなど



図4 ブロックに付着するフジツボ類

最後に

今回は珍しく水中ドローンも一緒に潜らせてみたので、ダイバーと水中ドローンがお互いを撮影した様子（図5）と、調査終了を見届ける水中ドローンが撮影した写真（図6）をお届けして終わります。



図5 水中ドローンとダイバーがお互いを撮影する様子

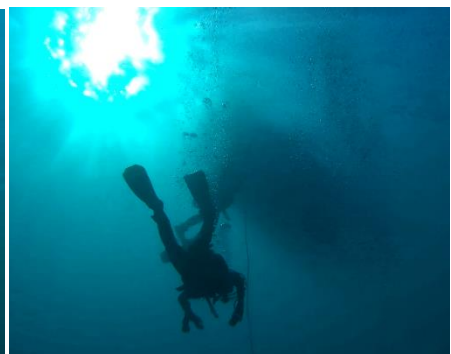
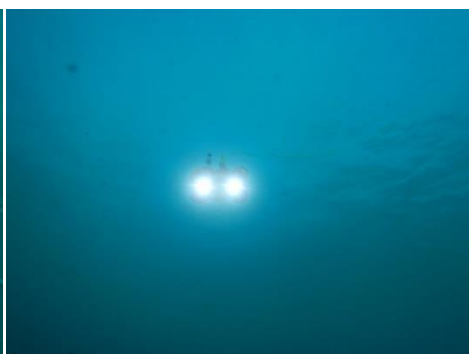


図6 調査を終え浮上